

明るい恵那

2017年8月20日
第1669号
日本共産党
恵那協議会
恵那市大井町735
電話 26-3608



「オール岐阜5区 市民の会・恵那」開く

市民と野党が力をあわせよう

5区市民の会と連携し、幅広い組織を目指して

安倍政権は行き詰まり内閣改造させましたが、本質は変わらず憲法改正を目標にしています。安倍政権に代わる政治勢力を築くために、いま全国各地で市民と野党の共闘が進み、運動も広がっています。

この地域でも昨年暮れから、東濃5市の市民有志が集まり協議を重ね、次期衆議院選挙での野党共闘を呼びかけ、それを実現することで合意し「オール岐阜5区の会」としてスタートされました。その後、民進党推薦候補の阿知波吉信氏、共産党推薦候補の小関祥子氏からも意見を聞き、野党である民進党、共産党、新社会党、社民党の代表とも協議をされました。別記の「設立趣旨」にあるように、会の目的は、「思想信条・支持政党の違いを乗り越え、立憲主義の回復、および個人の尊厳を養護する政治の実現を目的とする」ために、次期衆議院選挙に統一候補を擁立してたたかうものです。

「市民の会・恵那」8日、各団体個人が参加

東濃各市での組織化も進み、8月8日恵那市民会館で開かれた会には、政党、団体、個人25人が集まり、まず自己紹介そして近況、又安倍政治への怒りなど多方面にわたり身近な問題から「今の政治をなんとかしたい」という皆さんの心からの思いが語られました。幅広い呼びかけ人をどうやってつくっていくのか、など今後の会の進め方が話し合われましたが、今回は10月12日午後1時半から市民会館で開かれます。

「オール岐阜5区市民の会」設立趣旨

私たち東濃5市の市民の有志は、安倍政権が進めている戦争のできる国づくりに反対して立ち上がりました。そして、日本国憲法の平和主義と立憲主義を守り、安保法制に反対する広範な市民の声に応え、「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求めるオール岐阜5区市民の会（略称*オール岐阜5区市民の会）」を結成しました。

本会は、思想信条・支持政党の違いを乗り越え、安保法制を廃止することと立憲主義の回復、および個人の尊厳を養護する政治の実現を目的とします。この目的を達成するため、東濃5市の有志の連絡・協議を密にし、多様な活動を展開していきます。

日刊しんぶん赤旗 8月15日号
トップ記事 「政治考」から抜粋

野党と市民の共闘

(中祖寅)

「9・11テロ、3・11東日本大震災・原発事故を経て、日本も世界も今一度立ち止まり、21世紀をどのように進むかを根本的に考え直す時期だ。二大政党制も一度は大きく崩れ、安倍政治という深刻な状況を生み出した。腹を据えて日本の針路を考える時期だ」

こう語るのは「市民連合@新潟」で共同代表を務める佐々木寛新潟国際情報大学教授です。佐々木氏は、昨年10月の新潟県知事選で、野党と市民の共闘の中心の一人として奮闘し、米山隆一知事の勝利をかち取りました。佐々木氏は「安倍政治に変わる『もう一つの選択肢』があることを急いで示し、それをベースとした政権合意を有権者に示す。新しい受け皿になる政治権力をつくるという、難しい避けられない課題がある」と指摘。政策論として、安保外交では、「憲法問題や沖縄基地問題、安保法制や自衛隊、日米同盟の問題が入ってくる」とし、エネルギー・経済政策では、「原発問題や財政、金融、社会保障問題が重要だ」と述べます。原発から再生可能エネルギーへの転換は、「若者をはじめ日本社会全体の人間的エネルギーを大きく引き出す」と、目を輝かせました。

地方の胎動

佐々木氏は、政策論議も含め「日本で変化が起こるとすれば地方からだ」と強調。2014年の沖縄県知事選、昨年の参院選1人区の東北を中心とする11選挙区、新潟県知事選の勝利をあげ、「こうした地方の胎動に耳を澄ませられるか、そこがポイントだ」と述べます。

(続く)



野党共闘を実現するための政策（提言）

次に掲げる政策を岐阜5区の野党に提言し、野党共闘を実現します。

- ①安保法制の廃止、共謀罪法の廃止、立憲主義の回復、個人の尊厳を擁護する政治の実現。
- ②安倍政権下での憲法改正に反対。
- ③核兵器禁止条約の早期受け入れ。
- ④社会保障を充実し、格差と貧困の拡大を是正、健康で安心して生活のできる地域・社会の建設。
- ⑤地方産業の振興に努め、雇用を創出し、過疎化・少子化による地域崩壊を食い止め、地方を活性化させる。
- ⑥核のごみ処理場を東濃につくらせない。

公立夜間中学について

夜間中学は戦中戦後の混乱なかで義務教育を修了できなかった人のために公立中学校が夜間に開設した学級です。現在は総生徒数の約8割が外国人の生徒です。

8都府県の大都市を中心に、31校が設置されています。文部科学省では、少なくとも各都府県に1校は設置するよう促進をはかっています。

公立夜間中学設置状況(2016年)

設置自治体	校数
千葉県	1
東京都	8
神奈川県	2
京都府	1
大阪府	11
奈良県	3
兵庫県	3
広島県	2

しかし東北には、公立夜間中学はなく、仙台市と福島市に「自主夜間中学」が1校ずつあるのみです。

集いで講演

1月14日、回会が公立夜間中学設置へ

「講演内容がよく調しました。」

子どものころ、戦後の混乱の中で満足な勉強ができなかった渡辺さんは、74歳のとき夜間中学の存在を知りました。そして「福島に公立夜間中学をつくる会」が運営する「福島駅前自主夜間中学」で学び始めました。

「機運を高めた」と「夜間中学を知る集い」を開催。前事務次官(当時)が「夜間中学と日本の教育の未来」と題して講演し、現在8都府県に31校しかない公立夜間中学の設置促進に向け、昨年12月に成立した教育機会確保法も教育を受ける権利の重要性を強調しました。



参加者に語りかける前川さん(7月5日)

夜間中学で講師

前川さんはその後

7月5日、回会の講師に招かれ講演。加計学園問題や今の政治のあり方に言及。「国民は常に政治や権力を監視しないといけない」と述べました。講演後は、お年寄りの生徒と一対一で新聞を読みながら解説して話し合っています。

夜間中学で“学び”の保障を

前川喜平・前文部事務次官と交流

福島市

7月10日、加計学園の獣医学部新設をめぐる衆参両院での閉会中審査で、文部科学省の前川喜平前事務次官が参考人として意見を陳述をしました。福島市生活と健康を守る会の渡辺宏司さんは、自主夜間中学の生徒として前川さんと交流を続けています。

分からないと渡辺さんが言っていること聞いた前川さんは、事務次官辞任後、福島に来て講演内容や時事問題を解説してくれました。

「2月から5月まで計11回、福島を訪れた。『学びたい人の役に立ちたい』と福島駅前自主夜間中学のボランティア講師を務めています。」

私は今、福島駅前自主夜間中学で学んでいます。中学時代に学びきれなかったことが多々あります。学び直すことも大事だと思います。

今年1月14日福島市民会館第2ホールで「夜間中学を知る集い」があり、前川喜平事務次官(当時)の講演がありました。その講演の内容が私にはよく理解できず、「福島に公立夜間中学をつくる会」代表(当時)の大谷一代氏から連絡を取ってもらい、2月1日に前川氏に会うことができました。

ボランティアで講師活動を約束

その時、1月14日に講演した原稿を持って来て説明をしていただきました。でも、全部説明を聞くことができず、次回を約束していただきました。前川氏はこれを機会に、ボランティア講師として福島駅前自主夜間中学で活動することを約束。

「本当に人の役に立つ活動だから参加できてうれしい」とも言ってもらいました。こんな素晴らしい人に出会っても、生活と

健康を守る会があってのこと。これからの出会いを「人生の宝」として参ります。7月5日には、福島駅前自主夜間中学(昼のクラス)の勉強会が開催され、回会代表の大谷氏や前川氏の参

一緒に学びたい生徒が増える勉強会の前後にもいろいろな方から言葉をかけていただき、その中で民進党の金子恵美衆議院議員の秘書の方が、「金子議員が出席の予定だったが、出席できない」と握手を求めてきました。

いろいろ会話しいるところに若い女性が来て「私も前川さんと一緒に学びたい」と話でした。自主夜間中学にまた一人、生徒さんが増えました。勉強の外、人とのつながりも大事にしていきたい



生健会から多くの参加があり、自主夜間中学で何一つ恩返しできていないと思います。生健会から大きな光をもらいました。生健会、自主夜間中学のみならず感謝し、夜間中学への一層の支援をお願いしたいと思います。

ていねいな教えに感謝し 出合いを“人生の宝”に

手記

福島市 渡辺 宏司(78)

時間で前川氏は新聞の読み取り方などを教えてくださり、「ありがとうございます」の気持ちでいっぱいでした。

勉強会の前後にもいろいろな方から言葉をかけていただき、その中で民進党の金子恵美衆議院議員の秘書の方が、「金子議員が出席の予定だったが、出席できない」と握手を求めてきました。

いろいろ会話しいるところに若い女性が来て「私も前川さんと一緒に学びたい」と話でした。自主夜間中学にまた一人、生徒さんが増えました。勉強の外、人とのつながりも大事にしていきたい

生健会から多くの参加があり、自主夜間中学で何一つ恩返しできていないと思います。生健会から大きな光をもらいました。生健会、自主夜間中学のみならず感謝し、夜間中学への一層の支援をお願いしたいと思います。

生活と健康を守る会 は昔から知っていましたが、大阪狭山市ではなく、堺市の知り合いから「守る新聞」を送ってもらい、会員にもなっています。

暮らしが不安と先日、近くの年配の方のお宅を訪問すると「年金が月3万円でも100万の家賃を支払っている。とても不安。貯金を取り崩しているが底をついてきた」と言われたので、議員に相談して行ってもらう。『娘や息子に生活保護は受けるなと言われたよ。『残念ですね。権利なんですよ』とお話ししましたが。そんなとき「守る新聞」で、兵庫の医師生活保護の活動のうしろ姿を知り、6月24日

「弱い立場に実生活保護」大阪府大阪狭山市

7月16日号掲載の数独の解答

の放送を耳ま 「みさ姉」ている女性は非正規の就労員で、いろいろ抱えた方だにのっていま

「みさ姉」ている女性は非正規の就労員で、いろいろ抱えた方だにのっていま

「弱い立場に実生活保護」大阪府大阪狭山市

8 + 5 で答えは 「13」

生活と健康を守る新聞 7月23日 第2366号から

前文部科学省事務次官前川喜平さんの自主夜間中学での活動が報道されていました。「守る新聞」編集部の了解を得ましたので紹介します。

全国生活と健康を守る会連合会 発行